

「主体的・対話的で深い学び」を実現する間接指導のポイント

5学年も6学年も学習リーダーの司会・記録で授業を進める

第6学年	わたり	第8学年
1 本時の問題を把握し、課題をたてる。5分 (E4 課題)	1 本時の問題を把握し、課題をたてる。5分 (E4 課題)	1 本時の問題を把握し、課題をたてる。5分 (E4 課題)
1mの値段が120円のロープがあります。このロープ1/3m、2/3mの代金は、それぞれ何円ですか。	1mの重さが2.14kgのパイプがあります。このパイプ3.8mの重さは何kgですか。	1mの重さが2.14kgのパイプがあります。このパイプ3.8mの重さは何kgですか。
○分かれていること、開いていることに線を引く。 ○数直線を基に等えて式を書き、答えを求めればよいことに気づく。	○分かれていること、開いていることに線を引く。 ○数直線を基に等えて式を書き、答えを求めればよいことに気づく。	○分かれていること、開いていることに線を引く。 ○数直線を基に等えて式を書き、答えを求めればよいことに気づく。
$120 \times \frac{1}{3} = 40$ $120 \times \frac{2}{3} = 80$		
2 課題を把握し、解決の見通しを待つ。5分 (E4 課題)	2 課題を把握し、解決の見通しを待つ。5分 (E4 課題)	2 課題を把握し、解決の見通しを待つ。5分 (E4 課題)
分数のかけ算で、積がかけられる数より小さくなるのはどんな時が調べよう。	かけられる数も小数の場合の計算のし方を考えよう。	かけられる数も小数の場合の計算のし方を考えよう。
$120 \times \frac{1}{3} = 40$ $120 < 40$ $120 \times \frac{2}{3} = 80$ $120 > 80$	○見通しを立てる。 ・数直線を用いて。 ・かけられる数に注目する。 ・2.14を整数にする。 ・3.8を整数にする。 ・100倍にする。 ・100倍した数で計算する。 ・答えを求め、元の数に戻す。	○見通しを立てる。 ・数直線を用いて。 ・かけられる数に注目する。 ・2.14を整数にする。 ・3.8を整数にする。 ・100倍にする。 ・100倍した数で計算する。 ・答えを求め、元の数に戻す。
3 自力解決をする。10分 (E4 活動)	3 自力解決をする。10分 (E4 活動)	3 自力解決をする。10分 (E4 活動)
○どんな時に、「かけられる数>積」になるのか考える。 ○真分数は①より小さい数であることを確認する。 ○「かける数」「かけられる数」「積」に別の数字を入れて確かめてみよう。 ・自分の考えが合っているか確認	○「かけられる数も小数の場合、整数にして計算し、かけた数だけ割る。」	○「かけられる数も小数の場合、整数にして計算し、かけた数だけ割る。」
考えを発表する。10分 (E4 活動)	4 考えを発表する。10分 (E4 活動)	4 考えを発表する。10分 (E4 活動)
・1より小さい数をかけると、積がかけられる数より小さくなる。	・かけられる数に注目する。 ○10倍した数で計算する。 ○答えを求め、元の数に戻す。	・かけられる数に注目する。 ○10倍した数で計算する。 ○答えを求め、元の数に戻す。
5 本時のまとめをする。5分 (E4 確認)	5 本時のまとめをする。5分 (E4 確認)	5 本時のまとめをする。5分 (E4 確認)
分数のかけ算で、積がかけられる数より小さくなるのは、1より小さい数をかけた時。	かけられる数も小数の場合、整数にして計算し、かけた数だけ割る。	かけられる数も小数の場合、整数にして計算し、かけた数だけ割る。
6 通知問題をやる。5分 (E4 確認)	6 通知問題をやる。5分 (E4 確認)	6 通知問題をやる。5分 (E4 確認)
○教科書の問題をやる。	○計算で計算する。 ・ $2.14 \times 100 = 214$ → 小数部分が右へ2けた移動 ・ $3.8 \times 100 = 380$ → 小数部分が右へ2けた移動 ・ $214 \times 38 = 8132$ → 小数部分が左へ2けた移動 ・かけた数だけ割ればよいことに気づく。	○計算で計算する。 ・ $2.14 \times 100 = 214$ → 小数部分が右へ2けた移動 ・ $3.8 \times 100 = 380$ → 小数部分が右へ2けた移動 ・ $214 \times 38 = 8132$ → 小数部分が左へ2けた移動 ・かけた数だけ割ればよいことに気づく。
7 学習を振り返って感想を書き、交流する。5分 (E4 振り返り)	7 学習を振り返って感想を書き、交流する。5分 (E4 振り返り)	7 学習を振り返って感想を書き、交流する。5分 (E4 振り返り)
・かける数が1より大きければ、積はかけられる数より大きくなるが、小さければ小さくなるのが分かった。 ・整数とや小数と同じと思った。 ○5年生に学習したことを伝える。	・小数×小数の計算も整数にして計算すればよい。同じように計算もできる。 ○6年生に学習したことを伝える。	・小数×小数の計算も整数にして計算すればよい。同じように計算もできる。 ○6年生に学習したことを伝える。
8 次時の予告	8 次時の予告	8 次時の予告

問題文への書き込み
 わかっていること→青線
 聞いていること→赤線
 単位を書く。

本時の問題をつかむ
 今まで学習してきたことを活用して、解決の見通しをもつ。

練り上げの場面
 児童中心にねり上げができるように、「ねりあげの視点」を示しておく

- ① いかに
- ② なんと
- ③ つても 等

多様な考えが出ない場合

① 司会の児童
 「この式はどう考えましたか?」「どうして正しいのか説明してください。」「別の言葉でいうとどうなりますか?」などの質問をする。

② 教師の手立て
 ・「問い返し」の言葉
 ・揺さぶりのための誤答

上学年と下学年の交流
 「本時の学習でどんなことを学び、どんなことが分かったのか」について交流する。交流することにより、上学年は既習の確認になる。下学年は、説明し、質問を受けることで、学習内容の理解が深まり定着する。

課題設定
 今までの問題と本時の問題の違いをつかみ、子供たちで話し合って課題文をつくる。

かけられる数も小数の場合の計算のし方を考えよう。

課題を設定した後、まじりの数(100)の「リード文(太字)」を先に書き出す。

キーワードの記録
 書きは、「学び合う場面」で出てきた「キーワード」を記録しておく。

かけられる数も小数の場合、整数にして計算し、かけた数だけ割る。

まとめの文づくり
 「キーワード」を使って子供たちで話し合ってみよう。
 課題文と同じ「リード文(太字)」から書き出すようにすると、自分たちだけでまとめの文を作ることができるようになる。